

## 29年第一回森づくり活動事業報告

開催日時 29年5月28日(日) 8時から13時頃

場所 狭山丘陵さいたま緑の森博物館-入間市宮寺

活動内容 P地区檜植林地0.6haの下草刈り除伐

参加者 主催者-NPO 埼玉森林サポータクラブ 18名 体験参加者 高校生1名

JAC埼玉支部 5名 高嶋・渡邊・熊谷・多田・朝日 計24名

タイムスケジュール

8時受付集合 ヘルメット・手鋸の貸与

8時30分開会式 参加者確認・作業説明・体操

8時50分現場へ移動

○9時作業開始

檜植林地を覆いつくす雑草と常緑樹の手鋸による草刈りと除伐。特に目立つのは主に関東地方の照葉樹林帯に多いとされるシラカシが、数メートル以上にも達し、植林地を鬱蒼とさせている。足元には大きくかたい茶色のシダが広がるがアオキは少ない。特にカエデは残すようにとの指示あり、ところどころにシュロが生えている。確かに大鎌より手鋸が役立つ下草刈りと除伐のP地区である。従って作業が順調に進み、背丈のあるシラカシの除伐は伐倒の如く声をかけ、退避しその直後歓声もあがり、一気に陽が差し込み達成感抜群である。見違えるように明るくなった植林地を、11時には現場引き上げの指示が出て、途中8年間観察のヒメザゼンソウの健在を今年も確認し、広場に戻り閉会式。高嶋委員長が閉会式で述べた、植林地内の古タイヤ放置、盗難と思われる自転車の捨て置きが気がかりであった。

○午後からの自然観察会

博物館の休憩所で昼食後、地元熊谷委員が周到に熟慮された所沢の荒幡富士市民の森観察に移る。まずは「荒幡富士」に登山、360度の眺めは流石富士ならではの景色に満足、雲がかかり高尾山・陣馬山の向こうに在るであろう、西の大きな富士は見えないが予想以上に見渡せる。下山し、麓の浅間神社にお参りする。その後、トトロのふるさと基金が指定管理をしている、埼玉丘陵いきものふれあいの里センターに立ち寄り、館長からヒアリングを受ける、特に大鷲が鳩を獲物に飛来する解説は、環境異変の兆候かとも思われる興味深い話であった。

「荒幡の富士」は、明治17年(1884年)から旧浅間神社の社地にあった富士山の村民共同による移築作業を始めます。明治32年(1899年)、15年の歳月をかけて「荒幡の富士」は完成しました。何度か存続の危機に見舞われます、関東大震災・荒れるに任せた戦後。しかし、その都度住民が総出で復興にあたり、原形の保存に努めてきました。現在は、地域住民の「荒幡富士保存会」により、大掃除やパトロールなどが行われています。 所沢市HPから編集記載



手入れ前の鬱蒼とした植林地



下草刈り除伐後の植林地に陽光が射す  
手前に除伐のシラカシの山



荒幡富士山頂

標高119M

山の高さは12Mと18Mの説がある